ひらどだい

令和４年度　学校だより　６月号　横浜市立平戸台小学校学校長　　丹波　悟亮

干潟にて

副校長　渡邊　智志

当日の朝は抜けるような青空でした。前日が季節外れの冷たい雨で、晴れるという天気予報も半信半疑な気持ちで聞いていたため、空を見てほっとしました。

本校の 4 年生 5 年生が野島野外活動センターで宿泊体験学習を行いました。1 日目の活動は海辺での活動でした。ほとんどの子どもたちが初体験となるカヌーの操縦が活動の中心でした。ただし密になるのを避けるため、78 名を 4 つのグループに分けて行います。待っている間、子どもたちは野島の展望台に上って景色を見たり、海辺で磯遊びを行ったりして楽しみました。

磯遊びを行う干潟は潮の引きもよく、潮干狩りをしている大人の姿も結構多くみられました。子どもたちはヤドカリや磯ガニ、ヒトデなどを見つけて楽しんでいました。

「副校長先生、これ、持って帰っていい。」見ると、プラスチックの水槽に磯ガニが 12，3 匹は入っていたでしょうか。きっと夢中で捕まえたのでしょう。その男の子は誇らしげな表情です。しかし、少し話をするうちに持って帰るのをあきらめ、逃がしに行きました。その子と話をするうちに、自分の子どもの頃を思い出しました。

私の生まれは東北の山間部で、子どもの頃は川や森の中で生き物を捕まえるのが何よりの楽しみでした。ニジマスやフナなどの魚をよく捕まえていました。魚は釣るより手や網で捕まえる方が楽しかったです。休みの日には水中眼鏡と軍手を用意して家族で川に行き、大きな岩の下にひそんでいるのを狙って手づかみにします。大人が焚火をして待ち構えており、子どもたちは冷えた体を温めながら捕まえた魚を焼いて食べさせてもらいました。東北の夏は短く、大人も子どもも全身で夏を楽しんでいたように思います。

秋になると山には様々な木の実がなります。私はアケビの実が特に好きだったのですが、崖のようなところになっているので、採るのはちょっとした冒険でした。大人もそれを知っており、私がアケビの実をもって帰ると危険なことをするなとたしなめられるのでした。それでも、アケビの実は甘く、祖母が作ってくれるアケビの皮の味噌炒めがとてもおいしかったので、自分だけ食べて知らんぷりをすることがなかなかできなかったのでした。

その子のおかげで、50 年近く前の思い出がふと蘇ったのでした。大都市の中にそんな自然が残されている横浜の良さを改めて感じました。物珍しい小さな命に驚き、夢中で捕まえ自然に返すその子の様子を見たり、おっかなびっくりカヌーで漕ぎ出す子どもたちに声をかけたりしながら、子どもたちの成長のため自然の中でさまざまな体験をすることの大切さを改めて実感したのでした。

感染症拡大防止の対策はまだまだ続きそうですが、現状と環境をよく見て子どもたちが生きた学習に取り組めるよう配慮してまいります。皆様のご理解とご協力を引き続きお願いいたします。